

# 2026年6月5日 第3552回例会

於： 横須賀商工会議所



<点鐘・開会> 12:30 山下 会長

<斉唱> 「君が代」「奉仕の理想」

<唱和> 「四つのテスト」

<ビジター紹介> \*横須賀北ロータリークラブ 福嶋 義信 様

<誕生日祝> \*勝間 佳枝 (S. 8) \*植田 威 (S. 34)

\*山田 晴史 (S. 36) \*梶木 洋平 (S. 54)

\*小澤 長幸 (S. 44) \*柴田 朋彦 (S. 46)

\*加藤 淳 (S. 37) \*齋藤 眞且 (S. 28)

\*笠木 英文 (S. 22)

各会員

<入会月祝> \*江沢 暁彦 \*五十嵐 俊男 \*勝見 慎一

\*山下 和男 \*鈴木 孝博 \*八木 達也

\*久保田 英朗 \*渡邊 磨 \*鹿島 勇

\*木村 一郎 \*松本 明弘 \*加賀本 好美

\*来生 亮 \*加藤 淳 \*大野 健男

\*岡田 圭太 \*永井 信年 \*小澤 長幸

\*柴田 朋彦 \*沼田 裕一 \*荻山 寛樹

\*高橋 岐武

各会員



<新会員入会式> \*西 生 篤 会員 (推薦者: 鈴木 孝博 副会長)



- <会長報告> \*国際ロータリー日本事務局より  
 ・ロータリーレート 6月1日より1ドル160円⇒159円  
 \*ガバナー事務所より  
 ・2026-27年度地区ロータリー財団セミナー及び補助金管理セミナーご案内  
 について

7月18日(土) 受付開始:12:30  
 財団セミナー:13:00~15:15  
 補助金管理セミナー:15:45~16:45

- <委員長報告> \*雑誌委員会 江口副委員長よりロータリーの友6月号  
 \*出席委員会 森委員長より5月分出席報告 平均出席率 69.60%

	会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メイクアップ数	出席率
5月8日	110名	110名	66名(3名)	34名	3名	69.00%
15日	111名	98名	66名(3名)	32名	3名	70.41%
22日	111名	98名	65名(1名)	33名	3名	69.39%

\*吉住会員より新会員セミナー(5月30日開催)報告

<米山奨学生への奨学金の授与>

- <幹事報告> \*セブRC ICOタンク補助の報告

- <出席報告> \*出席委員会 森委員長から6月5日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メイクアップ数	出席率
110名	101名	61名(2名)	40名	4名	64.36%

メイクアップ:小林(一)、鈴木(之)、鈴木(孝)各会員 理事役員会出席 前田会員 地区委員会出席

<ニコニコ報告>

- ・福嶋 義信様(横須賀北RC)お世話になります。
- ・八巻、野坂、権田、八木、濱田、飯塚、田邊、高橋、佐久間、渡邊、齋藤、北村、植田、齋藤、波島、根岸、吉田各会員  
 ビジター、横須賀北ロータリークラブ 福嶋義信様、ようこそお越し下さいました。  
 ごゆっくり例会をお楽しみください。
- ・植田、梶木、小澤、加藤、齋藤、笠木各会員 誕生月祝いとして
- ・五十嵐、山下、鈴木、八木、渡邊、木村、松本、加藤、大野、小澤、高橋各会員 入会月祝いとして
- ・三 役 本日の新会員卓話どうぞ宜しくお願いいたします。ご用意いただいたファイルがスムーズに開けばいいのですが……。三役はハラハラドキドキしつつ、お話し伺わせて頂きます。
- ・木村、大野、椿、江口、梶木、真野、八木、高橋、角井、濱田、飯塚、田邊、森、高橋、植田、徳永、杉浦、齋藤、萩原、長尾、小林(一)、田中、澤田、渡邊、杵渕、根岸各会員  
 本日は井上会員による新会員卓話です。とても楽しみにしています。  
 よろしく宜しくお願いいたします
- ・井上 会員 本日は新会員卓話という貴重な機会を頂き、誠にありがとうございます。つたない話ですが少しでもご興味を引くような話ができればと思っています。
- ・三 役 西生会員、ようこそ横須賀RCへ!会員一同心より歓迎申し上げます。これからのこの街での一時、またロータリーライフが西生さんにとりまして充実した時間となれば幸いです。
- ・石田、八巻、小澤、高橋、植田、杉浦、齋藤、萩原、比護各会員  
 JCOMマーケティング(株)横須賀局長 西生 篤様入会おめでとうございます。  
 これからもよろしく宜しくお願いいたします。

- ・西 生 会 員 本日、晴れて入会させていただきます。横須賀初めてなのでいろいろ教えてください。よろしくをお願いします。
- ・6番テーブル吉田マスター、池田サブマスター 5月25日(月)、6番テーブルミーティングをメルキュールホテル横須賀にて開催しました。お忙しいところ山下会長、鈴木幹事、比護SAAにご参加いただきありがとうございます。抜群のロケーションと美味しいお料理、お酒、そして楽しい会話で盛り上がりました。吉住会員、会場の手配でお世話になりました。ご参加いただいたメンバーの皆様、ありがとうございました。
- ・植 田、川 名、澤 田、吉 住 各会員 5月25日(月)、6番テーブルミーティングをメルキュールホテルにて開催しました。吉田マスター、池田サブマスター案内から段取りまでお世話になりました。料理とお酒も美味しく、近状報告も大変盛り上がり楽しいテーブルミーティングでした。
- ・波 島 会 員 過日の7番テーブル楽しくごちそう様でした！
- ・八 木、濱 田、飯塚 健、高橋 倫、小山 陽、藤 村、  
笠 木、長 尾、波 島、齋藤 眞、川 名、杵 渕 各会員  
昨日行われた春季関東地区高校軟式野球大会にて三浦学苑が県大会の屈辱を晴らし見事優勝をしました。8月から始まる全国大会の活躍が楽しみです。ビーチバレーも県予選を突破、横須賀学院高校女子テニス部の蝶野選手もインターハイ出場など、これからが楽しみです。

## <新会員卓話>

井 上 智 史 会 員

皆さま、こんにちは。住友重機械工業で横須賀製造所長を務めております、井上です。

本日は、新会員卓話という貴重な機会を頂き、誠にありがとうございます。今日は、一つ目に「住友重機械と横須賀の関わり」、二つ目に「これまで私が携わってきた仕事」、そして最後に「趣味の話」をさせていただきたいと思っております。まずは、住友重機械と横須賀の関係についてです。横須賀製造所は横須賀市の北東部に位置し、京浜急行では追浜駅が最寄りになります。これまでも歴代の横須賀製造所長がロータリークラブに参加しておりましたので、既に耳にされた話もあるかもしれませんが、簡単に沿革をご紹介します。住友重機械のルーツは、1888年、愛媛県新居浜で、別子銅山の鉦山機械や器具を製作する「工作方」として創業しました。一方、ここ横須賀・浦賀では、1897年に浦賀船渠が設立されています。この二つが



1969年に合併し、現在の住友重機械工業となりました。真ん中に「オモイ」がある会社とのキャッチコピーがありますが、「重機械」の「重」という文字は、浦賀重工業との合併によるものです。個人的には、この「重」という字には、歴史の重みや技術の積み重ねといった意味も重なって感じられます。浦賀船渠は、明治期に急増した汽船を修理するためのドライドック不足を背景に、榎本武揚らによって設立されました。世界的にも珍しいレンガ造りのドックは、2021年に横須賀市へ寄贈されています。今年3月には、横須賀市、開発事業者であるインデックス社、そして住友重機械の三者による協定が締結され、浦賀地区の再開発が本格的に進もうとしています。この地域に長く関わってきた企業として、私たちも大きな期待と責任を感じています。追浜にある横須賀製造所は1971年に開所しました。当時は船の大型化が進み、浦賀では大型船の建造が難しかったことから、全長560メートル、幅80メートルという、当時世界最大級の建造ドックを備えた造船所としてスタートしました。その後、多くの船舶を建造してきましたが、現在は洋上風力発電向けの下部構造物の建造へと事業の軸足を移しています。また、昨年は製造所内の技術研究所が新しくなり、環境やエネルギー分

野を中心に新たな製品開発にも力を入れています。さらに現在、建設機械の新工場も建設中で、横須賀製造所はこれからも姿を変えながら進化していく予定です。次に、私自身の仕事についてお話しします。私は1991年に住友重機械に入社しました。入社するまでは、ずっと福岡で育ちました。大学では造船学科を専攻し、夏休みに造船所で行われた実習を通じて、「ものづくりの迫力」に強く惹かれたことが、今の仕事の原点になっています。入社後、最初に配属されたのは基本計画の部署でした。当時はタンカーだけでなく、さまざまな種類の船を建造しており、幅広い経験を積むことができました。特に印象に残っているのが石炭運搬船です。お客様の要望を伺いながら、コストと性能のバランスを考えた提案ができたのではないかと思います。振り返ってみると、引合業務と設計業務に携わった年数は、ほぼ半々です。引合業務の面白さは、契約に至るまでお客様と直接向き合い、生の声を聞ける点にあります。船の世界は海外のお客様が中心で、特にギリシャの船主の方々は、こだわりも強く議論好きで、苦勞することも多々ありました。ただ、一度信頼関係を築けると、その後は驚くほどスムーズに進むこともあり、人と人の仕事なのだと実感した経験でした。一方、設計業務の魅力は、現場と一体となって船を造っている感覚が得られることです。自分が設計したものが、実際に現場で組み立てられていく様子を近くで見ることができる環境は、技術者として非常に恵まれていたと思います。最後に、私の趣味の話をさせてください。私は、弦楽器の中で最も大きなコントラバスを演奏しています。高校時代、吹奏楽部に入ったことがきっかけでこの楽器を始めました。その後、大学のオーケストラサークルではまり、現在も横浜市金沢区のアマチュアオーケストラで活動しています。コントラバスという楽器は、同じ弦楽器のバイオリンやチェロと比べても個性豊かで、大きさや形もさまざまです。弦の本数も4本が一般的ですが、5本の楽器もあります。昔は3本というものもあったそうです。私は学生時代までは学校の楽器を使っていましたが、就職した翌年に今使っている楽器を購入しました。4本弦で少し小ぶりなタイプです。コントラバスは、オーケストラでは一般的に右の端にいて、低音を支える、いわば縁の下の力持ちのような存在です。楽器を弾くのに弓というものを使います。この弓もバイオリンやチェロはフランス式のみであるのに対して、コントラバスはフランス式に加えてドイツ式というものがあり、私はドイツ式を使っています。日本では約9割がドイツ式を使っているともいわれています。これは日本にクラシック音楽が入ってきたころ、ドイツ人から指導を受けたことが影響していると聞いています。私が楽器を始めたころの教則本もドイツ式の弓が使われていましたし、そのころはフランス式の弓があるとは知りませんでした。コントラバスは見た目の通り持ち運びが大変で、車を使わざるを得ず、演奏会後の打上げでお酒が飲めない、という欠点もありますが、長く続けられている大切な趣味です。偉大な作曲家が残した楽譜に書かれた音符を追いながら、曲を作り上げていくことは、仕事など全てを忘れて没頭でき、リフレッシュできる趣味だと感じています。最後に少しだけ宣伝です。7月に、私が所属しているアマチュアオーケストラの演奏会があります。もしご興味がありましたら、ぜひお越しください。以上、簡単ではありますが、私の卓話とさせていただきます。ご清聴、誠にありがとうございました。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

<閉会・点鐘> 13:30 山下会長

週報担当 池田 亨